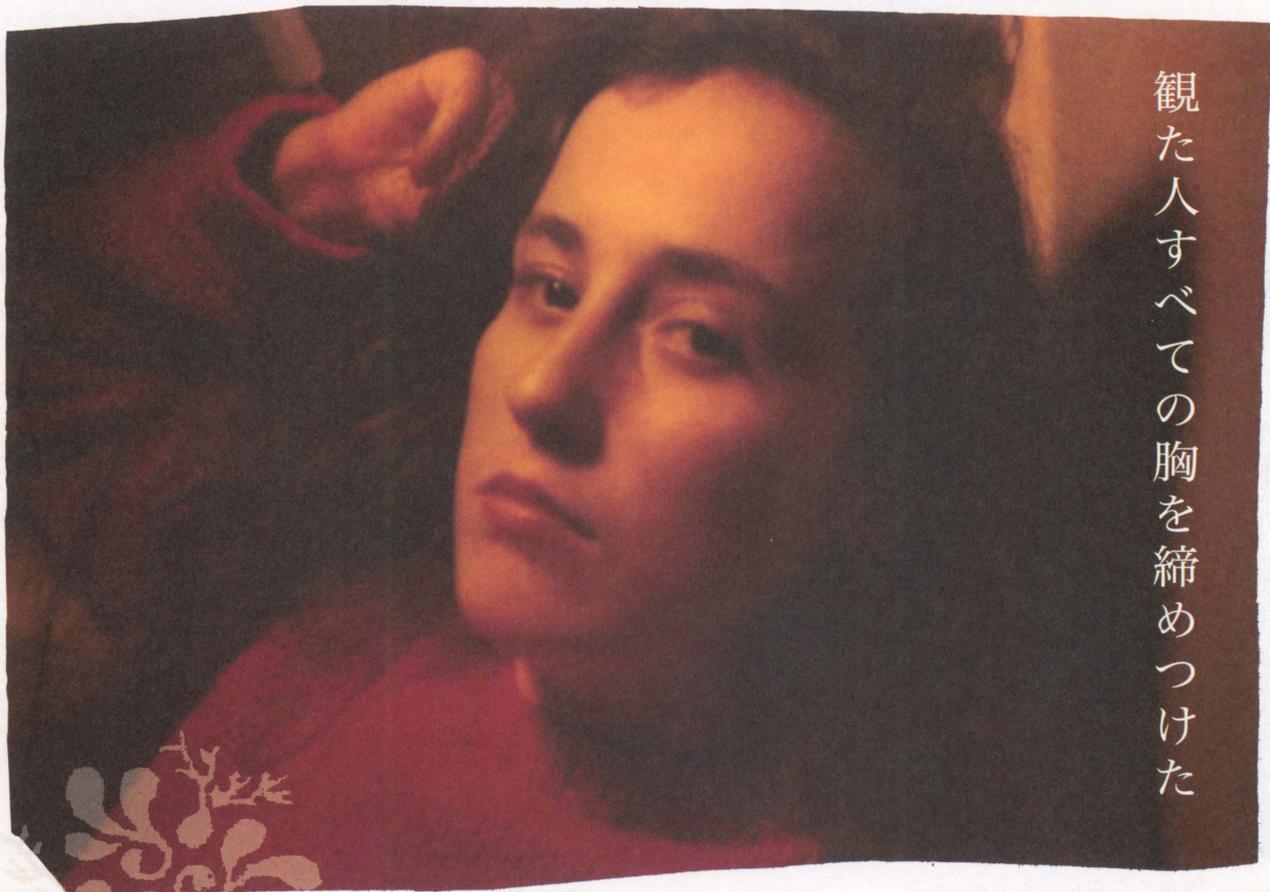


第60回カンヌ国際映画祭監督週間出品 国際批評家連盟賞受賞
サンドリーヌ・ボネール(『仕立て屋の恋』主演)監督作品



観た人すべての胸を締めつけた

彼女の名はサビーヌ

Elle s'appelle Sabine

自閉症者への正しい理解と医療制度の不備を知りたい。この映画を「政治的な意図をもつ」と言い切る監督は、『仕立て屋の恋』の主演などで知られるフランスを代表する女優サンドリーヌ・ボネール。自閉症である自身の妹サビーヌにカメラを向けた本作品は、障害者への理解を訴える映画であると同時に、相互の愛に満ちた姉妹の物語でもある。

サビーヌは作品完成後、この映画をあまりにも何度も繰り返し観るので、現実世界から乖離して映画に没頭しすぎることはないようにという医師の指導で、毎週火曜日だけこの映画を観ることが許された。

サビーヌは、火曜日がくるのをとても楽しみにしている。

何かを嘆くのではなく、非難するのではなく、ただ「この私を見よ」と追ってくる目、これまで映画が
このような目をとらえたことはなかったと思う。

—— 黒沢清(映画監督)

この世に誕生した全ての命は生きる権利がある。互いに理解し、支えあい、魂を磨きあっていく為に。この作品は、サビーヌは、それを私に教えてくれた。

—— 高橋恵子(女優)

監督・脚本・撮影：サンドリーヌ・ボネール 出演：サビーヌ・ボネール

2007年/フランス/85分/video/カラー/1:1.66/フランス語 原題：Elle s'appelle Sabine
配給・宣伝：アップリンク 協力：ユニフランス東京、フランス大使館、東京日仏学院、エールフランス航空、アニエスベー

j' aime le cinéma ! agnès b.



姉が自閉症の妹に贈る「映画」という「抱擁」

しなやかに動きまわる美しい女性。5年の入院生活の中で、30キロ増えた肉体とさらなる心の重荷を背負ってしまった女性。このふたりがサビーヌという同一人物なのだ、と理解することが苦しかった。

この過酷な人生をみつめた私の時間は、彼女の人生を分かち合う時間だったことを教えられた。

—— 高橋靖子(スタイリスト)

この作品は“病”という概念が社会という枠組みによって作られたものだというのをわれわれに知らしめる

そして そのことが一個の人間を 徹底的に否定することがあることも

—— 名越康文(精神科医)

人を人たらしめるもの、それは喜びや涙や笑いといった心の動き。人は何と美しい存在なのでしょう。過去と現在が織り成すこの作品から溢れ出る、美しい妹サビーヌへの

愛と温かなまなざしに、包まれました。

—— 知花くらら(モデル・リポーター)



この映画を見て感じるのは、すばらしい姉妹愛と安住の地を求められた安心感である。もう一つは、自閉症の理解、支援に対する不十分さであり、他国の問題とは言い切れない。

—— 市川宏伸(都立梅ヶ丘病院 院長)

人は環境でこれほど変えられてしまうのかと驚いた。“サビーヌという女性”の魅力に微笑んだ。

自閉症という以前に、サビーヌなのだねとうなずいた。

—— 松本典子(バラエティ・ジャパン編集部)

撮影が終わって私は妹に「大変だった？辛かった？」と感想を尋ねました。するとサビーヌは「私はあなたと同じ女優を演じたのよ」と答えました。彼女は自分が役に立ったと感じています。そして、とても癒されたのです。

—— サンドリーヌ・ボネール



2月14日(土)より渋谷アップリンク他、全国順次ロードショー!

UPLINK(X) / UPLINK(F)ACTORY

| 10:30 | 13:00 | 15:00 | 19:00 |

*3/14以降のスケジュールは変更する可能性がありますので、劇場に直接お問い合わせください。
渋谷区宇田川町37-18ツツネビル1・2F 渋谷東急本店右側道200m右手 tel:03-6825-5502/5503

当日料金: 一般 ¥1,500 / 学生 ¥1,300 / 小・中・シニア ¥1,000

障害者の方+同伴者の方 ¥1,000(お一人様)

平日学割 ¥1,000(平日に限り、学生証を受付にてご提示ください)

自主上映のお問い合わせ: アップリンク film@uplink.co.jp